

学校概要

創立 16 周年	学校長 大河内 裕子	副校長 小原 由美	学期 2 学期制	児童・生徒数 608 人
学級数 一般級: 18 個別支援級: 2			主な関係校: 中川中学校、中川西中学校	

学校教育目標

共に生きる たくましく生きる かがやいて生きる 牛久保の子

- [知] 分かる楽しさ、できる喜びを感じる子を育てます。
- [徳] 思いやりの気持ちをつなげる子を育てます。
- [体] 心と体の強い子を育てます。
- [公] 「自分が好き」「学校が好き」「まちが好き」な子を育てます。
- [開] 視野を広げ、国際社会に生きる子を育てます。

学校の特色

- 本校は、牛久保公園や、せせらぎのある「くさぶえの道」、遊歩道にも隣接しており、自然に恵まれた環境の中に立地している。
- 保護者の教育に対する関心は極めて高く、また、PTA活動だけでなく、「おやじの会」も活動し、学校行事などでも協力を得られている。
- 創立時から縦割り活動(フレンドチーム)を大切にし、幼保小交流や小中連携を充実させ、「自分から」を合言葉に、思いやりの気持ちをもち主体的に動く子を育てようとしている。児童の基礎学力は、やや高い傾向にある。
- 学区は3自治会にまたがり個々活動は充実している。学校に対して温かい見守りと協力的な姿勢が感じられる。
- 教職員が地域行事に参加し子どもの参加を奨励し協力関係を築いている。今後さらに地域の教育力を生かした教育活動の充実を図り、地域連携を組織的に広げられるとよい。
- 経験の浅い教職員の増加に伴い、組織力の向上と人材育成を必要性が高い。

学校経営中期取組目標

- わかる楽しさ・できる喜びを感じる魅力ある授業づくりに努め、基礎・基本の確実な定着、体験的な学習の推進、体力向上への取組を継続します。(知・体)
- 確かな児童の実態把握を通して、一人ひとりを大切にした学習指導と心を育てる児童指導の充実を図ります。(知・徳)
- 家庭・地域・各関係機関等との連携を深め、子どもを真ん中にした「チーム牛久保」としての取組をすすめ、信頼に応える着実な教育実践に努めます。(公・開)
- 教職員一人ひとりの専門性を高めるとともに、新学習指導要領の完全実施を見据え、牛久保らしい教育課程の創造に努めます。

小中一貫教育の取組

中川中学校 ブロック : 中川中学校、中川小学校、南山田小学校、牛久保小学校

9年間で育てる子ども像

自分も他者も大切にしながら、豊かな学び合いができる子

自校の具体的取組

- 「よりよい人間関係を築くために必要な力」の育成のために、キャリア教育を充実させる。
- 「自ら考え、判断と行動ができる力」や「主体的に学び続ける力」について検討し、その共有を図る。
- 特別支援教育に関する研修を行う。

重点取組分野

取組目標

具体的取組

確かな学力

- 目指す子どもの姿、身に付けさせたい資質・能力を明確にし、子どもの「学び」の質の向上を図る。
- わかる楽しさ、できる喜びを感じる魅力ある授業づくりを行い、自ら考え判断し、友達と相互に学び合いながら確かな力を身に付けた子どもを育てる。

- ・豊かな言語活動を通して、思考力、判断力、表現力を育てる授業展開を図る。
- ・学習の見通しを明確にする、視覚化を図る等ユニバーサルデザインの視点を大切に「わかる・できる授業」「考えやすい授業」づくりをする。
- ・少人数指導において、単元の特性に合わせて習熟度別学習指導を取り入れたり、個に応じた支援を充実させたりして、基礎・基本の定着を図る。
- ・教科分担任、学年合同授業など、多様な学習場面を設定し、一人ひとりのよさや課題を複数でみとり指導していく。
- ・総合的な学習の時間のあしあとカリキュラムを整理し、系統性を意識した単元構想をする。
- ・学力・学習状況調査などの分析を通じ、確かな子どもの実態把握のもと、カリキュラムマネジメントに取組む。
- ・専門機関等による出前授業などを積極的に取り入れる。

担当

○教育課程・研究・評価部
児童活動運営部

豊かな心

- 「フレンドチーム」(縦割り活動)等の異学年交流や体験的な活動を充実させ、自己を尊重する心をもち、自分で考えよと判断したことを進んで行う子どもを育てる。

- ・学習や生活、係活動等において、子どもが主体的に活動できる場面を意識して設定する。
- ・異学年との関わり方や役割を学ぶよう、フレンドチーム内での交流の場を増やし、幼保小交流等のためあてや評価規程を明確にする。
- ・牛久保の「まち」に目を向け、心や感性を育てるように、地域教材や体験的な活動を系統的に取り入れる。
- ・自らを振り返り、よりよく生きようとする心を育む「道徳科」の指導や環境整備を充実させる。

担当

○児童活動企画運営部
心豊かな生活環境部

健やかな体

- 自分の健康について考え、見つめる取組(食育、保健活動等)の充実を図る。
- 1校1実践運動を継続して、「強い体」を育てる。

- ・生活科や理科、保健などの学習を大切にしたり、体力テストの結果を生かしたりして、自分の体を見つめ、健康を意識した生活ができるような取組を考える。
- ・食や体に対する関心を高めるために、栄養教諭による食育の学習を継続して行ったり、学校保健委員会で子どもたちに必要なテーマを取りあげたりする。
- ・一校一実践の「縄跳び」や持久力を高めるランニング等に継続的に取り組む。

担当

○心豊かな生活環境部
(含む A 研体育部)

人権教育
児童・生徒指導

- 安定した学級づくりを目指し、他者の人権や学校生活の基本を大切にしたい個に寄り添った丁寧な指導をする。
- 児童理解やいじめ防止・不登校などの課題解決のため、校内児童支援体制の充実と各関係機関との連携を図り、組織的に対応する。

- ・人権週間の取組を系統的に行い、全校で人権への意識を高める。
- ・日常や学年研、三部会、職員会議等で、具体的な子どもの姿で語ることを大切にする。
- ・いじめや不登校などの諸課題に対し、担任だけでなく、学年や専任、各関係機関等との連携を図り、組織的に対応にあたる。
- ・あいさつ週間の取組では、保護者や地域への啓発を図って、協同で取り組む。
- ・月別生活目標・保健目標・給食目標をもとに、全職員が共通した指導を行う。

担当

心豊かな生活環境部

特別支援教育

- 特別な支援が必要な児童について、児童や保護者の思いに寄り添い、情報交換・共通理解のもと、全職員がかかわりながら個に応じた指導や適切な支援を行う。

- ・特別な支援が必要な児童一人ひとりに応じた個別的教育支援計画や個別の指導計画を立て、全職員が共通理解のもと、児童や保護者の思いに寄り添った指導を行う。
- ・コンサルテーションなど他機関と連携を図るとともに、校内研修を充実させ、教員一人ひとりの専門性を高め、適切な指導・支援ができるようにする。

担当

心豊かな生活環境部

地域連携

- 地域の「材」を学習に取り入れ、地域行事へ参加を奨励したりして、地域を大切にする「まちが好き」な子を育てる。
- 幼保小中交流や地域の人・もの・こととの豊かなかかわりの中で視野を広げ、社会貢献的な心の成長を図る。

- ・児童とともに教職員も地域行事に積極的に参加し、地域とのかかわりを大切にする子どもを育てる。
- ・地域の教育力(人・もの・こと)を生かした単元開発を積極的に行う。
- ・幼保小中の連携に積極的に取り組み、子どもの発達や学びの連続性を保証する。
- ・地域にある幼稚園や大学、各関係機関等の連携を進め、授業や職員研修等の充実を図る。
- ・安全指導では、PTA(校外委員)や学援隊の方との共通理解を図り、学年一斉下校や登下校指導を継続して行う。

担当

教育課程・研究・評価部
(含む幼保小・地域連携担当)

人材育成・
組織運営

- キャリアステージにおける目標を明確にし、自ら学び続ける教員を育成する。
- 学年研、三部会、UCL(共同研究)などにおけるマネジメントを大切にし、日常からの人材育成を図る。
- 各研修での学びを全職員で共有する。
- 子どもを真ん中にした「チーム牛久保」としての取組を推進する。

- ・メンターチーム(5年次までの教員)では、授業研究や学級経営の指導力向上を図るための研修を行う。ミドルリーダーやベテラン教員もかかわって、研修の充実を図る。
- ・学年研や三部会、UCL(共同研究)等で、ベテランの経験値やよさを引き継げるよう、運営方法や内容の工夫をする。
- ・円滑な人間関係のもと、組織力をしっかりと生かしているように、心にゆとりがもてるような工夫をし、教員が教育活動へ意欲的に取り組んでいけるようにする。

担当

教務会・メンター研担当
教育課程・研究・評価部

いじめに
関する項目

- いじめ防止・予防・早期発見の取組内容の充実を図り、いじめを許さない学校風土をつくる。
- いじめ防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処法等に関する措置を、各関係機関等と連携しながら実効的・組織的に行う。

- ・いじめの未然防止に向けて、子ども達がいじめの問題を自分たちの問題として考え、主体的に話し合う機会や活動を行う。
- ・月1回の学校生活アンケートや教育相談(ハートフルウィーク)を行い、児童がいじめを訴えやすい環境・体制を整え、いじめの実態把握に取り組む。
- ・「いじめ防止メソッド」の活用や「子どもの社会的スキル横濱プログラム」の計画的な取組を行う。
- ・他機関と連携し、スマホ、携帯教室などを参観日等に設定し、児童だけではなく、保護者にも積極的に働きかけ情報モラル教育を充実させる。
- ・計画的な研修のもと、教師のいじめ防止への認識を高めるとともに、スキルアップを図る。

担当

人権・児童指導・
特別支援担当